

診療科(講座)紹介

- 1) 神経症候学、神経解剖学、神経生理学及び臨床神経学を基盤とした演繹的思考、またそれに基づいた医学的手技を身に着け、神経疾患救急から慢性疾患に至るまで対応できる優秀な神経内科専門医を養成することを目標としている。
- 2) とくに急性期疾患の病態把握と対処を重要視している。
- 3) 磁気刺激治療を始めとする臨床神経生理学の分野で、世界トップクラスの研究をしている。
- 4) 当教室における神経内科専門医試験の合格率は全国トップクラスであり、受験資格を有する者全員が合格している。
- 5) 臨床神経学関連の国際誌に、年間10編程度の論文を発表している。
- 6) 東大病院、ロンドン大学、トロント大学、国立循環器センター、情報通信研究機構、国立保健医療科学院など多くの施設との共同研究を行っていて、外国留学も可能である。

指導医(スタッフ)紹介



部長(教授)
宇川 義一

昭和53年 東京大学医学部卒業

臨床専門分野

- 1) 臨床神経学

研究分野

- 1) 臨床神経生理学
- 2) 脳機能イメージング
- 3) 大脳磁気刺激
- 4) 運動の病態解析

学会活動

- 1) 日本神経学会(評議員)
- 2) 日本臨床神経生理学会(理事)
- 3) Basal ganglia (Asian Section Editor)
- 4) International Federation of Clinical Neurophysiology (IFCN)
- 5) Clinical Neurophysiology (associated editor)
- 6) Movement disorders society(editorial board member)
- 7) Cerebellum (editorial board member)
- 8) 臨床神経生理学(編集委員)
- 9) Clinical Neuroscience(編集委員)



副部長(准教授)
杉浦 嘉泰

平成4年 弘前大学医学部卒業

平成8年 福島県立医科大学大学院修了

臨床専門分野

- 1) 臨床神経学

研究分野

- 1) イオンチャネル病



助教 熊谷 智広

平成6年 福島県立医科大学医学部卒業

平成11年 福島県立医科大学大学院修了

臨床専門分野

- 1) 臨床神経学

研究分野

- 1) 虚血性脳血管障害



講師 榎本 博之

平成5年 旭川医科大学卒業

平成15年 旭川医科大学大学院修了

臨床専門分野

- 1) 臨床神経学

研究分野

- 1) 臨床神経生理学



助教 榎本 雪

平成6年 奈良県立医科大学卒業

臨床専門分野

- 1) 臨床神経学

研究分野

- 1) 臨床神経生理学



講師 望月 仁志

平成6年 防衛医科大学校医学科卒業

平成11年 防衛医科大学校医学教育部医学系

研究科修了

臨床専門分野

- 1) 臨床神経学

研究分野

- 1) 臨床神経生理学、筋ジストロフィー症



助教(学内講師)
星 明彦

平成8年 福島県立医科大学卒業

臨床専門分野

- 1) 臨床神経学

研究分野

- 1) 脳虚血耐性
- 2) 神経筋疾患のアクアポリン発現について



助教 小林 俊輔

平成5年 東京大学医学部卒業

平成14年 東京大学大学院修了

臨床専門分野

- 1) 臨床神経学

研究分野

- 1) 臨床神経生理学



助教 中村耕一郎

平成11年 福島県立医科大学医学部卒業

臨床専門分野

- 1) 臨床神経学

研究分野

- 1) 臨床神経生理学



助手 吉原 章王

平成13年 弘前大学医学部卒業
臨床専門分野
1) 臨床神経学



助手 守谷 新

平成15年 福島県立医科大学医学部卒業
臨床専門分野
1) 臨床神経学

後期研修(専門医養成コース)プログラム

	修得すべき手技や手術経験目標数など
1年次 (卒後3年)	神経診断学や検査手技等、神経内科医としての基礎となる医療技術は勿論のこと、全身状態のアセスメントや栄養管理法など、内科医として必要な知識や全身管理技術の習得にも重点を置いています。
2年次	市中病院での研修等と交え、外来診療のノウハウなど、臨床医として必要な知識と技術を更に高めます。この時期に内科認定医試験を受験しますが、当科で研修した医師は全員が内科認定医試験に合格しています。
3年次	高次救命救急センターでの研修も含めて、プライマリーケアや最先端医療、高度医療技術を身につけます。これらを経て初期研修医や中期研修医の指導役となります。本人の希望に合わせて、研究のテーマを決定する。
4年次	病棟を統括するチーフレジデントを経験します。チーフレジデントは直接患者を受け持たず、全入院患者を把握して方針の決定に携わり、入退院の管理を行うほか、診療報酬に関するノウハウの習得や学生指導役も行います。

大学院・留学について

希望者には大学院への進学を優遇しています。その際も、臨床医としてのレベルを維持するためカンファランスや抄読会への参加ができるような工夫をおこなっています。また、収入の確保にも十分な配慮を施しています。

多くの施設との共同研究を行っており、研究テーマについては本人の希望に応じて決定しています。

現在、当科では1名の米国留学者がいます。他大学からの研究生3名とドイツからの留学生1名が来ています。その他カナダから留学生が来る予定です。

留学に対しても、それぞれの希望や将来像に合わせて柔軟に対応いたします。

専門医受験資格のために必要とされる技能・手技目標

取得できる専門医は以下の通りです。

1. 内科認定医
2. 神経内科専門医
3. 内科専門医
4. 臨床神経生理学会専門医
5. 日本頭痛学会頭痛専門医 (現在整備中)
6. 日本脳卒中学会専門医

このうち、内科認定医と神経内科専門医は受験資格に該当する学年(内科認定医:4年目、神経内科専門医:7年目)は全員が取得しています。その他の専門医はそれぞれの専門に合わせた適宜取得が可能です。

神経内科専門医受験資格のために必要とされる技能・手

技目標は以下の通りです。

1. 内科認定医であること。
2. 神経学的診察が正確に行え、正常・異常の判断が出来ること。
3. 神経解剖・生理の知識や概念が頭に入っていること。
4. 神経学的診察に基づき局所診断が出来ること。
5. 病歴・診察所見に基づき病因の推定が出来ること。
6. 鑑別診断・確定診断のための検査プランがたてられること。
7. 推定した病因に基づき治療プランがたてられること。
8. 脳死の判定が出来ること。

後期研修協力病院

	関連病院名	所在地	指導医名	職名
1	総合南東北病院	郡山市	山本 悌司	神経科学部門部長
2	太田西ノ内病院	郡山市	松浦 豊	神経内科部長
3	大原総合病院	福島市	斎藤 直史	神経内科主任部長
4	研記念病院	二本松市	本間 真理	神経内科部長
5	松村総合病院	いわき市	熊巴 真澄	神経内科診療部長

指導医からのメッセージ

病棟医師の体制は8人(指導医4人・担当後期研修医4人を2グループに分けています)＋初期研修医数名で構成されています。平日は8時半から病棟回診を行い、その各々のグループで検査・治療の検討を行い1日が始まります。毎週木曜日には教授総回診があり、定期的にケースカンファレンスを行っております。それぞれ専門性を持ったスタッフにより、医局全体で討論を繰り広げ、常に世界トップレベルの医療と研究、そして研修プログラムを目指しております。

担当する患者は、大学病院という特性から世界で数例目という非常に貴重な症例が集まる一方で、めまい・頭痛のような一般的な症例も多数集まることという県立病院の特性も備えています。即ち、超急性期脳梗塞をはじめとする多様な一般的な症例を経験するとともに、ごく稀な症例も経験できます。「大学病院なので、一般的な脳血管障害、頭痛、めまいの経験が少なくなる」という心配は全く不要です。このような充実した症例の集積は全国でも例がなく、県立である大学病院のメリットといえます。また、一定期間研修協力病院での研修を行い、数多くの神経内科症例も経験していただきます。

治療に関しては、各学会が提示しているガイドラインに沿った治療を行うとともに、治療法が確立していない希少疾患に対しては、最新の論文を十分に検討し、時には倫理委員会に諮問しながら、evidence making medicineを実践しております。検査に関しては、髄液検査、頸部血管エコー・経食道心エコーなどのエコー検査、神経伝導検査や針筋電図のような神経生理検査、筋・神経生検など神経内科医にとって必要な一通りのテクニックを習得することができます。その他、世界に数カ所しか有していない特別な磁気刺激装置を用いた神経疾患の治療トライアルも行っております。

医局には各自専用の机、本棚、ロッカーが用意されます。大学病院の当直は、研修2、3ヶ月目から開始され、月数回程度です。当直の際は、必ず指導医レベルの医師がサポートする体制であり、神経内科医として経験の浅い医師でも安全で確実な診療を行うことができます。ともに働き、ともに学ぶ先生方を募集中です！